

## (6) 利益の求め方

### 【売上総利益】

SHINの売上総利益は以下の式で計算されています。

$$\text{売上総利益} = \Sigma \text{売上明細データ} - \Sigma \text{売上原価明細データ}$$



SHINは、売上明細データは、基幹システムの製品別・取引先別等の出荷データを元に作成されたものを取り込んでいます(値引き、返品、会計差分含む)。

一方売上原価明細データは、SHINが原価計算した以下のデータの積上げからできています。

- ①売上データに対応する製品別標準原価 × 売上数
- ②棚卸増減、在庫調整、廃棄、及びその他科目マスターで売上原価へ直接チャージと指定した他勘定振替項目が可能な限り製品別に作成されたデータ
- ③原価差異のうち、可能な限り製品別に作成されたデータ
- ④②③のうち、製品ごとに作成できなかった合算データ
- ⑤その他会計仕訳データから取込んだ売上原価内訳科目の仕訳データ
- ⑥製品ごとに区分できなかった差分データ、会計差分データの合算データ

よって、基本的に各在庫金額がSHINと会計システムデータで金額が一致していれば、差引計算で行っている会計システムでの売上総利益と一致します。

SHINは、これまで分かりにくかった製品別売上原価の“中身“が、積上げ方式により分かるように集計し、よって本来の意味での正確な「製品別実際損益」を求めることができるのです。

## 【営業利益】

SHINの営業利益は以下の式で計算されています。

$$\begin{aligned}\text{営業利益} &= \Sigma \text{売上明細データ} - \Sigma \text{売上原価明細データ} - \text{販管費}^{*1} \\ &= \text{売上総利益} - \text{販管費}\end{aligned}$$

\*1 販管費：販売費および一般管理費

即ち前ページで求めた売上総利益から販管費を差引く形で求めます。この場合、販管費は製品別等のデータに分解されていないことが多いため、一義的にはSHINでは製品別の営業利益は集計されません。よって、コストフローの営業利益をクリックして分析シートに入っても、営業利益は全体で集計され、製品別の営業利益は表示できません。

但し、後述する「原価差異配賦」機能によって、原価差異の配賦を含めた製品原価を集計する際に、販管費も“製品別売上高”の割合によって\*2、製品ごとに区分集計しています。この「原価差異振替」の実行によって集計される「売上原価」シートは、販管費を製品別に配賦し、「製品別営業利益」（総原価）が集計されます。

\*2販管費の配賦方法の変更はカスタマイズできます。